

赤城神社

赤城神社（成沢地内）は大己貴命（おおなむちのみこと）・豊城入彦命（とよきいりひこのみこと）で、ご神体は、金箔の木造である。

本殿は、唐破風と千鳥破風のついた一間社流造りで、細かな彫刻が施されている。

赤城神社の境内の脇には、寛政5年銘の石碑があるが、これは、昔、流行病があった時、ある僧が村人の病気を治すために自分から犠牲になって生き埋めになったのを供養したものである。これを「入定様」と呼んでいる。

